

令和 8 年度 第 1 回京丹後市スポーツ推進審議会会議録（公開用）

1. 会議名：令和 8 年度 第 1 回京丹後市スポーツ推進審議会
2. 開催日時：令和 8 年 6 月 5 日（金） 9 時 30 分～11 時 40 分
3. 開催場所：大宮庁舎 401 会議室
4. 出席者：小谷順一委員、近藤浩司委員、角江眞由美委員、和田直子委員、
小森直子委員、吉岡美乃里委員、藤村信行委員、谷口正郎委員、
辻野修委員
5. 事務局：松本明彦教育長、川村教育次長、
下戸裕子生涯学習課スポーツ推進室長、蒲田真穂主査、蛭子和也主任
6. 議題及び会議の公開又は非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：0 名
8. 委嘱状交付
9. 発言等の内容（要旨）

■開会

事務局

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。教育委員会事務局教育次長の川村です。本日の司会進行を務めさせていただきます。

審議会開始前に委嘱状を交付いたします。令和 8 年 5 月 31 日をもって前任期が満了となったため、令和 8 年 6 月 1 日から新たに審議会委員として、ご委嘱させていただきます。時間の都合上、代表の小谷順一様（一般社団法人京丹後市スポーツ協会副会長）にお渡しいたします。その他の皆様には、お手元にお配りしておりますので、ご確認ください。皆様には、令和 10 年 5 月 31 日までの 2 年間、委員としてお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、第 1 回京丹後市スポーツ推進審議会を開会いたします。

京丹後市スポーツ推進審議会条例第五条により、本審議会は委員の過半数の出席で成立することとなっております。本日は、板倉様、藤原様、今岡様から欠席のご連絡をいただいております。委員 12 名中 9 名の出席をいただいております。したがって、会

議が成立していることをご報告申し上げます。

■あいさつ

松本教育長

皆さんおはようございます。本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。また、日頃からスポーツ振興にご支援いただき、心より感謝申し上げます。

京都府では過去 5 年間で 7 万人が減少しており、福知山や舞鶴が消滅するレベルの人口減です。京丹後市も減少率が高く、特に出生数が 200 人代前半という厳しい状況にあります。

こうした中、全国的に中学校部活動の地域展開が推進されており、本年度から 6 年間かけて重点的に進める初年度です。来年度はワールドマスターズゲームズ 2027 でカヌー競技が京丹後市で実施されるなど、スポーツ振興の重要な時期を迎えています。本年度はアジアカップなど関連事業も予定しており、これらを通じて市民のスポーツへの関心と参加意欲が高まることを期待しています。

第二次スポーツ推進計画は令和 9 年度で終期を迎えるため、本日は令和 7 年度の達成状況をご報告いたします。皆様の専門的見地からのご意見をいただき、第三次計画策定に向けた市民アンケートも実施予定です。

本日はよろしくお願いいたします。

■自己紹介

各委員自己紹介

■京丹後市スポーツ推進審議会役員の選出

京丹後市スポーツ推進審議会条例第 4 条の規定により「会長及び副会長は委員の互選によって定める」ことから、事務局提案による委員の互選により次の委員が選出された。

○会長：小谷順一委員

あいさつ

先例に従って会長をお受けさせていただきます。皆さんのご協力をいただきながら、職務を全うしたいと考えております。

皆さんが所属する団体や地域での取り組みと課題を共有し、スポーツ振興に活かしていきたいと思います。

教育長からもお話がありましたように、少子高齢化はスポーツ界にとって喫緊の課題です。皆さんのご意見をいただきながら、少しでも解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。本日もよろしくお願いいたします。

○副会長：近藤浩司委員

※議事録署名人の指名 小森直子委員

■説明・報告事項

(1) スポーツ推進審議会委員の任務について

京丹後市スポーツ推進審議会条例 【資料1】

京丹後市スポーツ推進審議会条例施行規則 【資料2】

事務局より説明を行った。

(2) 令和8年度社会体育事業について

スポーツ推進室のイベント一覧表 【資料3】

令和8年度 社会体育関連予算（主要事項） 【資料4】

事務局より説明を行った。

次の通り意見があった。

委員：昨年ごろから熊の出没情報をよく聞きます。スポーツ施設の近隣は自然が多く、根本的な対策は難しいことは理解していますが、何か対策を検討されているのでしょうか。また、散歩などで施設を利用される際の安全対策について、市民への情報発信も含めてお考えをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

事務局：現時点では熊の対策はしておりません。

会長：熊対策は大変重要な案件ですので、今後の課題かと思います。

ジュニアスポーツアカデミー推進事業について報告がありましたが、何人くらい参加者がいましたか。

事務局：1回目と2回目が終了しました。おおよそ70名程度の参加者です。各小中学校においても啓発ポスターを掲示したり、周知に協力いただいています。

事務局：先ほどの熊に関するご意見をいただく中で、事務局から具体的な対策は現時点でできていないということを申し上げましたが、少し補足します。

教育委員会関係では、今年度、各学校にクマ対策用スプレーを配備するとともに、ほぼ全ての学校において、児童生徒に熊よけ鈴を配布、または各家庭で購入していただくなど、登下校時等の安全確保に向けた対策を進めています。

また、市全体としましては、6月1日に市関係機関で熊の緊急銃猟対応訓練を実施しました。ほかにも、市民の皆様にもまず身の安全を確保していただくことが重要であることから、クマの出没状況等に応じて、防災行政無線での情報提供により適時適切な注意喚起を行っているところです。引き続き、市民の皆様の安全確保を最優先に対応してまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

委員：私は久美浜で宿泊施設を営んでおります。

来年度、ワールドマスターズゲームズの開催を控えています。

そのような中で、8月のアジア大会期間中は日本人選手だけでなく、外国人選手や関係者の宿泊も見込まれます。しかし、現時点では具体的な受入れに関する情報が十分に届いておらず、不安を感じています。

特に食事対応については、宗教上の理由や食文化の違いにより、これまでと同じ対応では難しい場合もあると聞いています。外国人選手の中には豚肉を食べられない方もおられるため、どのような配慮が必要なのか事前に知りたいと考えています。

こうした受入れに関する情報提供や説明について、JTBや観光関係団体など、関係機関による事前説明の機会があればありがたいと感じています。以前は大規模なイベントの際に関係者による打合せの場が設けられていましたが、近年は各宿泊施設に任せる形が多くなっているため、受入れに向けた情報共有や意見交換の場を設けていただければと思います。

また、クマ対策に関連して、防災アプリについて申し上げます。先日、総務防災課による出前講座を受講し、防災アプリの活用方法について学びました。それまでもクマ出没情報などが配信されていることは知っていましたが、見方や活用方法が十分に理解できていませんでした。

実際に講座を受けることで、アプリが非常に分かりやすく、様々な防災情報を得ることができると感じました。クマ情報に限らず、防災全般に役立つ内容ですので、こうした出前講座を多くの地域や団体で実施していただければ、防災意識の向上につながるのではないかと思います。

事務局：アジア選手権につきましては、現在、各国に対して参加募集を行っている段階であり、全体のスケジュールがやや遅れている状況です。宿泊者数や食事数などの詳細につきましては、今月末頃にはおおよその人数が確定する見込みです。

また、宿泊に関する手配につきましては、JTBに委託して進めております。ご心配いただいております外国人選手等の受入れや食事対応につきましても、今後JTBと調整を行いながら、宿泊施設の皆様を対象とした説明会の開催など、必要な情

報提供ができるよう検討してまいりたいと考えております。もうしばらくお時間をいただきますが、詳細が決まり次第、順次ご案内させていただきますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

委員：途中ヶ丘公園の駐車場整備につきましては、これまで各種大会で課題となっていた駐車問題の解消につながるものと期待しており、感謝申し上げます。

一方で、近年は急な雷雨や猛暑など異常気象への対応が課題となっています。小学校陸上記録会や駅伝大会をはじめ、多くの児童生徒が利用する中で、雷雨時の避難場所が十分でない状況があります。

また、夏季には大学の合宿や各種スポーツイベントも開催されており、暑さ対策の観点からも、屋根付きスペースや照明設備の整備があれば、より安全で利用しやすい施設になると考えます。

予算面もあるかと思いますが、利用者の安全確保や施設利用の促進につながることから、今後の整備について前向きにご検討いただければと思います。

委員：ジュニアスポーツアカデミーについてお伺いします。

事業内容は承知しておりますが、対象競技が比較的人気のあるスポーツに偏っているように感じています。競技の選定は、主催者側から競技団体へ依頼しているのか、それとも競技団体からの申し出によるものなのか、その仕組みをお聞かせください。

また、競技人口の少ないスポーツについても、競技振興の観点から参加機会を広げていただきたいと考えています。

併せて、参加者については、既にその競技に取り組んでいる子どもたちが中心なのか、それとも新たに競技を体験してみたいという子どもたちがどの程度参加しているのか、分かる範囲で教えていただきたいと思います。

事務局：ジュニアスポーツアカデミーについては、京都府が主催する事業であり、京都府から団体競技を3競技実施するよう依頼を受けています。

競技の選定については、サッカーとバスケットボールは京都府の意向により決定しており、残る1競技については、競技人口や他市町の実施状況等を参考に検討した結果、バレーボールを選定しました。

また、年度当初の開催であることや、大会・試合日程との重複により、他の競技団体への参加依頼が難しい状況もありました。

なお、参加者のうち、普段から競技団体やスポーツクラブに所属していない子どもの割合については把握していませんが、多くは既に競技経験のある子どもたちではないかと考えています。

会長：スポーツにはさまざまな競技があり、多くの児童生徒に幅広い競技を経験してもらうことが大切だと考えています。以前は競技人口の多いスポーツと少ないスポーツを意識して見ていましたが、実際にさまざまな競技を観戦すると、どの競技においても子どもたちが生き生きと活動しており、その姿は大人にとっても大きな励みになると感じています。

また、体操をはじめ競技人口の少ないスポーツに取り組んでいる子どもたちも大切にしていける必要があると思います。スポーツ協会や教育委員会におかれましては、競技の規模にかかわらず、子どもたちが多様なスポーツに触れ、参加できる機会の充実に努めていただきたいと思います。

委員：青少年スポーツ協会の立場からジュニアスポーツアカデミーについて補足させていただきます。

今回のサッカー、バレーボール、バスケットボールについては、講師の方が来られるだけでなく、一緒に練習する相手も必要であることから、大宮地域のクラブチーム等に協力をお願いしました。

参加者については、もともとその競技に取り組んでいる子どもたちもいますが、「初めてやってみたい」「兄や姉が別の競技をしているので自分も参加してみたい」といった子どもたちも多く参加しています。70名ほどの参加者のうち、半数程度は初めて競技を体験する子どもたちではないかと感じています。特に低学年の参加が多く、保護者と一緒に来られるケースも見受けられます。

また、この事業について京都府の担当者とも話をする機会がありましたが、府内の地域ごとにスポーツを取り巻く状況が異なることを踏まえ、昨年度は南部地域で実施したものを、今年度は北部地域である京丹後市で実施したいとの意向がありました。

その際、私からも、今回の3競技だけでなく、卓球やバドミントンなど、さまざまな競技についても取り組めないかという話をさせていただきました。京都府としても、スポーツに親しむ機会づくりという観点から、幅広い競技への支援や連携は必要であるとの考えを示されており、今回の取組結果についても今後の地域スポーツ振興の参考にしたいとのことでした。

また、もう1点ご報告です。

昨年、この場や別の会議でもお願いしておりましたスポーツ施設の利便性向上についてですが、陸上競技場などの公共施設では、周辺に飲食店が少なく、駐車場の利用制限もあるため、大会やイベント参加者から不便との声が寄せられていました。

そこで教育委員会と相談し、昨年度の夏の大会から試験的にキッチンカーの出店

を認めていただきました。利用者からは好評で、かき氷や軽食などを購入できることから、応援に来られた保護者や待ち時間のある参加者にも喜ばれていました。今年度も継続して実施できるようになりましたので、スポーツ施設の利便性向上に向けた一つの前進として、皆さんにご報告させていただきます。

■協議事項

(1) 第二次京丹後市スポーツ推進計画の数値目標及び実施状況について

スポーツ推進計画の数値目標 【資料5】

数値目標の達成度分析 【資料5－1】

第2次スポーツ推進計画（R7年度）実施概要 【資料6】

事務局から説明を行った。

会長：少子高齢化が進む中で、実績を維持していることは評価できると思います。一方で、指導者や運営を担う人材の不足は大きな課題です。そのような状況の中で活動を支えていただいている皆さんの努力に感謝するとともに、こうした現状への理解を広げていくことが大切だと感じています。

委員：集計について2点申し上げます。

まず1点目ですが、大宮町スポーツ振興会が各区と連携して実施している町民体育大会の参加者数が集計から漏れているように思います。この大会は以前から継続して開催されており、参加者数も多いことから、参加者数を集計するのであれば対象に含めるべきではないかと思いますので、ご確認をお願いします。

2点目ですが、現在、公民館やコミュニティ組織が主体となって実施しているスポーツ活動の一部が把握できていない可能性があります。スポーツ協会の支部制廃止後、地域によっては公民館活動やコミュニティ活動としてスポーツ事業が継続されていますが、現状ではスポーツ協会側で把握しにくい状況があります。

実際に、弥栄町や久美浜町、丹後町などでスポーツ活動が行われていると聞いておりますので、こうした活動も含めて実態を確認し、必要に応じて集計に反映していただければと思います。数字にも影響する部分だと思いますので、よろしくお願いします。

事務局：拾えるものにつきましては拾って行って、また取りまとめに、反映をしたいと思います。

(2) 第三次京丹後市スポーツ推進計画策定に係る市民アンケート調査について

市民アンケート（修正版） 【資料 7】

アンケート修正箇所の説明 【資料 8】

事務局より説明を行った。

次の通り意見があった。

委員：まず、表紙の「18 歳以上 79 歳までの方の中の」という表現について、「の」が重なっているため、「18 歳から 79 歳までの方」など、より簡潔な表現でもよいのではないかと感じました。

次に、2 ページの問 4 について、「食生活に気をつける」という表現よりも、「食生活に気をつけている」や、「睡眠や休息をとるようにしている」といったように、回答者が行動をイメージしやすい表現の方が分かりやすいのではないかと思います。

また、注釈が最後のページにありますが、回答者は最後まで読まない場合もあると思いますので、最初の方のページに「注釈は巻末にあります」といった注意書きがあるとよいと思います。

委員：アンケートについて 2 点申し上げます。

まず、問 9 の設問の選択肢はすべて「〇〇ないから」となっています。「から」は不要だと思います。表現について検討の余地があるのではないかと感じました。また、今後の地域スポーツや部活動の地域移行を考える上では、受益者負担や費用負担に対する考え方についても把握する必要があると思います。クラブ活動の地域移行が進む中で、保護者や利用者が負担をどのように捉えているのかは重要な課題ですので、次期計画の策定に向けて、こうした視点についてもアンケート項目として検討していただければと思います。

委員：10 頁目の「障害者スポーツ・パラスポーツに関する設問ですが、全体的には分かりやすい内容となっている一方で、7 番の「きっかけづくりや仲間づくりのための障害者スポーツ教室の開催」という表現は、少し意図が伝わりにくいように感じました。障害のある方同士の仲間づくりを指しているのか、障害のある方とない方との交流を指しているのかが読み取りにくいです。例えば、「障害のある方とない方が一緒に楽しめるスポーツ教室の開催」など、具体的なイメージが伝わる表現にした方が、回答しやすいのではないかと思います。

私自身も設問の趣旨が少し分かりにくく、回答に迷いましたので、表現についてご検討いただければと思います。

委員：アンケートについて、いくつか表現や設問構成に関する意見を申し上げます。

まず、1 ページ目について、「～の」の表現が重なっている箇所や、「ください」の表記については、より読みやすい表現に修正してはどうかと感じました。また、「期間内にご回答ください」という表現についても、期間が明示されていないため、回答期限が分かりやすく伝わる表現を検討していただきたいと思います。

次に、2 ページの問 4 については、経年比較を行うのであれば、前回調査から設問内容が変更されている項目について、その影響を考慮する必要があるのではないかと感じました。

また、6 ページの問 13 では、「その他」の選択肢に記入欄がないため、括弧書きを追加した方がよいと思います。

さらに、「知っていますか」と尋ねる設問については、設問直後に説明文を掲載すると回答に影響を与える可能性もあるため、説明は後半にまとめるなど、整理した方がよいのではないかと感じました。

最後に、8 ページの問 25 については、選択肢が相反する内容ではないため、「1 つ選択」ではなく「複数選択可」とした方が、回答者の意識をより正確に把握できるのではないかと感じます。

委員：3 ページの問 8 についてですが、「ノルディックウォーキング」の捉え方が人によって異なるのではないかと感じました。

ポールを使って歩いている方の中には、ノルディックウォーキングとして実施している方もおられれば、ポールウォーキングとして取り組まれている方もおられると思います。そのため、回答者によって判断が分かれ、回答結果に影響する可能性があるのではないのでしょうか。

回答者が迷わないよう、必要であれば用語の説明を加えるなど、分かりやすい表現を検討していただければと思います。

副会長：ノルディックウォーキングとポールウォーキングは、歩き方や使用するポールが異なるため、実際には別の運動として扱われています。そのため、選択肢としては「ポールを使ったウォーキング」など、両方を含む分かりやすい表現にした方が、回答しやすく、実態も把握しやすいのではないかと感じます。

委員：一点確認したいのですが、高齢者施設や福祉施設などで実施されている体操や軽運動については、このアンケートではどのように扱われるのでしょうか。

施設内で日常的に体を動かす機会を設けている場合、参加されている方々は「スポーツをしている」と捉えることもできると思いますが、現在の設問では、その実態が十分に把握できないようにも感じます。

どこまでをスポーツ活動として対象にするかは難しいところですが、こうした活

動も把握する必要があるのであれば、設問の工夫や補足が必要ではないかと思えます。今後の検討材料としていただければと思います。

■その他

委員：現在、モルックの練習は夜間に実施されていますが、高齢者にとっては夜間の外出や運転が負担となる場合もあります。そのため、参加しやすいよう、昼間の時間帯にも練習会を開催していただけるとありがたいと思います。

また、ノルディックウォーキングについても関心がありますが、距離が長い印象があり、初心者には参加のハードルが高く感じられます。初心者向けの短いコースがあれば、参加しやすくなるのではないかと思います。

副会長：スポーツ推進委員会では、各地区でニュースポーツ教室を定期的で開催していますが、平日の開催は夜間です。委員も仕事を持っていますので、どうしても夜間の開催となります。モルック club という団体が日中活動を行っていますので、そちらに参加することも検討いただきたい。

ノルディック・ウォーキングは、距離に配慮しております。6月13日開催予定のノルディックでは、ロングコースとショートコースを設けています。ご自身の体力に応じたコースを選んでもらえます。

委員：スポーツ協会では、昨年度、大宮社会体育館で定期的に開放し、モルックや卓球などを気軽に楽しめる機会を設けました。午前中に定期開催したところ、「夜間より昼間の方が参加しやすい」という高齢者の声を多くいただきました。

また、大宮だけでなく、弥栄社会体育館など他の施設でも実施してほしいという要望もありました。

スポーツ協会としては、クラブ活動ではなく、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりとして取り組んだものですが、今後の検討課題の一つであると考えています。

事務局：アンケートにつきましては、本日さまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を踏まえ、事務局で内容を精査し、修正すべき箇所は修正してまいります。

今後の予定としましては、8月に無作為抽出した2,000名の方を対象にアンケートを実施する予定です。その前に、本日いただいたご意見を反映した修正版を委員の皆様へお送りし、ご確認いただきたいと思いますと考えております。特にご意見等がなければ、その内容で8月に実施したいと思います。

また、可能であれば今後のやり取りはメールで行いたいと考えておりますので、

メールアドレスをお持ちの方は事務局までお知らせください。本日も発言いただいた内容以外にも、お気づきの点がありましたら、随時メールでお寄せいただければ幸いです。

事務局：本日は、多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を今後の事業運営にしっかりと活かしてまいりたいと考えております。

また、8月には久美浜でアジアカヌー選手権大会が開催されます。暑い時期ではありますが、海外から多くの選手や関係者が訪れますので、お時間がございましたらぜひ会場へお越しいただき、交流や観戦を楽しんでいただければと思います。それでは近藤副会長から閉会のご挨拶をいただきたいと思いますよろしくお願いします。

副会長：皆さん貴重なご意見をありがとうございました。今回ご審議いただいた内容は、今後に活かしていきたいと思います。アンケートは、8月に配付する予定です。次回の審議会は、アンケートの結果のとりまとめが終わるころに開催する予定です。引き続きよろしくお願いします。

事務局：以上をもちまして閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。